

欧州馬術レポート

週刊 Gallop 2019年2月号掲載

馬耳蘭風 —オランダ奮闘記—

佐々紫苑

Shion Sassa



その夜は突然やってきました。いつもなら数人で行う夜の餌付けと見まわりを一人でやることになったのです。厩舎のボスのアイルランド人エイデンに、「一人ならこれがあるかい？」とニヤニヤしながら見せられたのがライフル銃（もちろんおもちゃ）。さすがに丁重にお断りましたが、そんなもので退治しなければならぬ何かと合わないことを祈りつつ、早々に夜の餌やりを終えました。



明松寺馬事公苑所属

◆佐々紫苑

(さっさ・しおん)

1995年東京都生まれ。早稲田大学卒。2012年全日本ジュニアライダー総合馬術選手権優勝。15、16年全日本ヤングライダー総合馬術選手権連覇。大学では4年連続で学業優秀賞を受賞。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

馬たちも寝静まった20時頃、見ま

わりのために厩舎に下りると、何やら「シャー」という不審な音が。これはまさかのライフルの出番かと恐る恐る音がする場所をのぞくと、3歳の若馬が申し訳なさそうにこちらを見ている。その脚元は壊れた水飲み台から水があふれ、まるで池のよう。どうやらゴロンゴロンしているうちに自動給水器に脚を当てて壊してしまったようです。これはとても私の手に負えないので、すぐにボスに連絡しました。

駆け付けた彼は厩舎の電源を落とし、洪水を止め修理に取り掛かりました。その間、私は停電で水が飲めない馬たちにバケツで水を配る役。ちなみにボスはパーティーでまさに「ビールで乾杯！」というタイミングで私に呼び出されたよう…。寒い中コーヒーマシンも動かず、*“no coffee, no beer…”*と切なそうにつぶやいたのは、聞かなかったことにしておきます。



エイデンは元世界選手権金メダリストのグループさんをやっていたんです（本人提供）

Let's enjoy Dressage

高田茉莉亜

Maria Takada



アイリッシュアラン乗馬学校所属

◆高田茉莉亜

(たかだ・まりあ)

1994年東京都生まれ。慶應義塾大学卒。2010、11年に全日本ジュニアライダー馬場馬術選手権連覇。16年の全日本ヤングライダー馬場馬術選手権で史上初の4連覇を達成した。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

馬術大国のドイツには、馬があふれています。ドライブをしていて、道端で放牧されている馬を見かけることや、馬を載せたトラックやトレーラーとすれ違うのは日常茶飯事。雑貨屋に行くと、馬をモチーフとした小物が必ずあり、ついつい手に取ってしまいます。乗馬は子供のメジャーなお稽古ごとで、日本でいうバレエや野球のような感覚です。それほど馬文化が根付いているのです。

なかでもドイツ馬術連盟があるワーレンドルフは、「馬の街」とも呼ばれ、街中に色とりどりの馬のオブジェがあります。馬術の専門学校があるのもこの街。馬が近くにるのがあたりまえのこの国が、馬術大国と呼ばれるのもうなずけますよね。

とはいえ、馬術はドイツだけではなく、欧米で非常に人気のあるスポーツで、夏はアウトドア、冬はインドアで、1年中各地で試合が行われています。日本でもこのぐらいの人気スポーツになるように盛り上げていきたいところです！



※Dressage=馬場馬術

オーストラリアの馬術競技場のバーのストールはリメークされた鞍でできているんです！（本人提供）